

所 報

I. 所員の移動についての報告

昨年度に引き続き、千葉果弘教授が研究所長を務める。1961年度より長年にわたって、ICUで教育心理学の教育と研究に携わってこられた原一雄教授が、1994年3月をもって退職された。現在、当研究所員は19名を数える。

II. 研究所活動報告 (1993年9月～1994年8月)

1. 講演会

1994年4月21日：山本敏幸氏（子供村学園勤務）

「タイ子供村学園の理念と実践」

1994年6月9日：小泉喜平氏（元国立教育研究所 アジア地域教育協力室長）

「日本における教育の国際協力の発端 — 国立教育研究所 —」

1994年6月9日：笹岡太一氏（元ユネスコアジア文化センター専務理事）

「日本における教育の国際協力の端緒 — ユネスコアジア文化センターのケース —」

1994年9月13日：Prof. Davies, Alan (Department of Applied Linguistics, University of Edinburgh)

“Proficiency or the Native Speaker: What are we trying to achieve in ELT?”

1994年10月28日：井上正幸氏（文部省学術国際局国際学術課長）

「日本における学術国際交流の現状と展望」

2. 研 究 員 (1994年4月1日～1995年3月31日)

(1) 研究員 I (Research Fellows)

- 1) 影山 礼子 勤務先： 国際武道大学一般教育部助教授
 研究課題：近代日本教育思想史（成瀬仁蔵の教育思想）
 保証人： 千葉果弘教授
- 2) 川津 茂生 勤務先： 国際武道大学一般教育部助教授
 研究課題：認知心理学と心理学の哲学
 （心の公共性と認知主義に関する研究）
 保証人： 栗山容子准教授
- 3) 鬼頭 當子 勤務先： MK図書館研究所所長
 研究課題：国際基督教大学大学修士論文に掲載された参考文献の分析
 保証人： 千葉果弘教授
- 4) 渡辺 淳 勤務先： 国際基督教大学高等学校社会科教諭
 研究課題：①日本における国際教育の展開とその教育史的意義
 ②社会科教育における教育方法の国際比較
 保証人： 千葉果弘教授
- 5) 吉米地憲昭 勤務先： 国際基督教大学カウンセリングセンター室長
 研究課題：①青年期における自己意識の発達について
 ②学生カウンセリングの意味について
 保証人： デイビッド W. ラッカム准教授
 （1994年6月1日～1995年3月31日）
- 6) 中村 優治 勤務先： 調布学園女子短期大学英語英文学科助教授
 研究課題：Language Testing
 （Developing a Speaking Test, Developing a Listening Test, Application of IRT(Item Response Theory) to Listening Tests）
 保証人： ランドルフ H. スラッシャー教授
 （1994年10月1日～1995年3月31日）

(2) 研究員 II (Research Associates)

- 1) 足立 実絵 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（教育心理学）
 勤務先： 狛江市教育研究所適応指導教室指導員

- 研究課題：協力を必要とする2人ゲーム遊びにおける遊び報略の発達の検討
保証人：栗山容子準教授
- 2) 原 和子 最終学歴：御茶の水大学理学部物理化学科卒業
研究課題：異文化体験のライフコース分析（帰国子女の追跡調査）
保証人：栗山容子準教授
- 3) 服部 純子 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（教育心理学）
研究課題：南畿三地域に於ける伝統的職業文化と住民意識
保証人：デイビッド W. ラッカム準教授
- 4) 上別府隆男 勤務先： Graduate Student, Program in Intercultural Management,
School for International Training
研究課題： Role of education for sustainable development
保証人：千葉杲弘教授
- 5) 小島 文英 最終学歴：M. A. (ジョージワシントン大学)
勤務先： 国際基督教大学教育研究所助手
研究課題：開発と教育
保証人：千葉杲弘教授
- 6) 萩原 美文 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（教育心理学）
研究課題：幼児・児童の対人交渉能力の発達
勤務先：品川区教育相談センター
保証人：栗山容子準教授
- 7) 柴田 協子 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（視聴覚教育）
研究課題：ニュー・メディアの普及における諸理論の検討，ICU語の普及に関する諸問題の実践的考察など。
保証人：阿久津喜弘教授

3. 助 手（1994年4月1日～1995年3月31日）

- 1) 小島文英 M.A. (ジョージワシントン大学)
- 2) 永田佳之 国際基督教大学教育学研究科博士後期課程教育原理専攻教育哲学専修
- 3) 岡林秀樹 国際基督教大学教育学研究科博士後期課程教育原理専攻教育心理学専修

Ⅲ. 研究室活動報告 (1993年9月～1994年8月)

〈教育哲学研究室〉

1. 人の動き

〈研究休暇〉 Prof. Duke, Ben. C. 1993年4月—93年11月

立川明準教授 1993年9月—94年8月

田中知雄 1993年9月副手着任。山口忍 1993年12月副手退任。

2. 研究活動

(1) 講演会

1994年 4月21日：山本敏幸氏（子供村学園職員）

「タイ、子ども村学園の理念と実践」

1994年 6月9日：小泉喜平氏（元国立教育研究所アジア地域教育協力室長）

日本における教育の国際協力の発端—国立教育研究所—

1994年 6月9日：笹岡太一氏（元ユネスコアジア文化センター専務理事）日本にお

ける教育の国際協力の端緒—ユネスコアジア文化センターのケー
ス—

(2) 研究会・その他

1993年 9月11日：大学院教育哲学研究室研究会（修士論文中間発表を中心に）

1994年 2月5日：教育学科教育学専攻生卒業論文・大学院教育哲学専修生修士論文
発表会

1994年 4月9日：大学院教育哲学研究室研究会（新入生の研究計画・修士論文の中
間発表を中心に）

1994年 8月3-5日：第16回ICU教育セミナー（八王子大学セミナーハウスにて、
卒業生教員、学部生、及びICU教員が参加）

ベンジャミン C. デューク 教授

Research Topics:

- ① “Asian Education for Leadership in the Twenty First Century” Field Research: China, Philippines, Thailand, and Japan. A Manuscript for book publication was begun.
- ② Japan’s Role in Asia in the Twenty First Century: – The Attitudes of the Future Leaders of Asia – Final report completed; currently under review by an international journal.

千葉 泉 弘 教授

研究活動

- ①第2回識字教育振興会議 名古屋・東京 1993年9月1日－8日
- ②中国吉林省長白山地域識字活動研究 1993年11月22日－28日
- ③ Consultancy to Unesco PROAP. (Djakarta) 継続教育マニュアル作成 1993年12月1日－6日
- ④日本における国際理解教育の基本的立場 1994年1月－2月
日本国際理解教育学会理事会研究会
- ⑤ユネスコ国際理解教育地域会議 タガイタイ・フィリピン 1994年3月1日－4日
- ⑥ネパールにおける識字教育活動の研究 カトマンズ・ネパール 1994年3月10日－16日
- ⑦ ASEAN Regional Seminar on Values Education. クアラルンプール・マレーシア 1994年7月11日－13日（日本の価値観教育について基調講演）
- ⑧カンボジアにおける識字教育の調査 カンボジア 1994年7月27日－8月6日
- ⑨ Consultancy to Unesco PROAP タイ 1994年8月9日－16日
ラーニングセンターの活動に関するマニュアル作成
- ⑩中国吉林省長白山地域識字教育研究 1994年8月22日－9月2日

著作・論文

- ①「識字教育と女性の地位」国立婦人教育会館主催 開発と女性国際セミナー報告書 1994年8月
- ② “Continuing Education in a Post-Industrial Society: A case of Japan.” ユネスコ・セミナー論文 1993年9月
- ③「学生不在の大学改革」（共著）ICU『教育研究』36号

- ④ Trends of Thought in Values Education: Japan's Perspective. ASEAN セミナー論文 1994年7月

講演会等

- ①国際識字デー記念シンポジウム（国連大学）1993年9月8日
- ②「ユネスコと教育協力」 国際フォスタープラン東京大会 講演ならびにパネルディスカッションパネリスト 1993年9月18日
- ③「国際理解教育か国際誤解教育か」
全国私立中学高校国際教育研修会 基調講演 1993年9月27日
- ④「国際理解教育と今後のNGOの役割」 NGO広場 1993年9月17日
- ⑤「アフリカ援助の諸問題」パネリスト, 「カンボジアの教育振興とNGOの役割」パネル討議コーディネーター 国連ボランティア東京大会 1993年10月7日
- ⑥「国際理解教育の諸問題」 週刊教育情報PKO座談会 1993年11月8日
- ⑦「共に生きる」 ユネスコ関東ブロック大会 基調報告 1993年11月13日
- ⑧「識字と女性の地位」 国立婦人教育会館 開発と女性セミナー 1993年11月17日-19日
- ⑨「カンボジア復興と寺子屋建設」 石川ユネスコ協会 1993年11月20日
- ⑩「日本の国際化とこれからの教育」 岩手県一関市教育研究所研修会
1994年1月11日
- ⑪国立婦人教育会館女性学習活動専門講座 「開発と女性—今変革の担い手として」
1994年1月26日
- ⑫世界寺子屋運動の基本線 日本ユネスコ協会中部地区大会 1994年2月12日
- ⑬4月東京フォーラム'94 21世紀にむける日本人の役割（国連大学）
1994年4月23日 パネリスト
- ⑭野村生涯教育センター 全国研究大会分科会助言者 1994年5月22日
- ⑮「世界寺子屋運動について」 日本ユネスコ協会事務局担当者会議
1994年6月10日
- ⑯「世界寺子屋運動とカンボジア」 創価学会名古屋地区（津及び名古屋）
1994年6月27, 28日
- ⑰「世界寺子屋運動が意味するもの」 柏ユネスコ協会 1994年7月16日
- ⑱ World Education Fellowship 第37回国際会議（国立婦人教育会館）
“Education of a World Family” 識字教育パネル討議コーディネーター
1994年8月20日

立川 明 準教授

研究活動

1993年9月から1994年8月の特別研究期間の大半は、米国ウィスコンシン大学マディソン校において、19世紀から20世紀にかけての欧米の大学史・プラグマティズムの哲学を研究した。その成果の一部は以下にのべる学会等において発表した。また、平成5-7年度の文部省科研費総合研究(A)「アメリカ多元文化社会における国民統合と教育に関する史的研究」(研究代表者中村雅子桜美林大学助教授)に、研究分担者として参加している。

学会参加

1994年8月10日から13日まで、アムステルダム自由大学において開催された国際教育史学会の第16回年次大会に参加し、The Educational Significance of the American Seminar Method: A Case Study of Herbert B. Adams and the Johns Hopkins Seminaryと題する研究発表を行った。

同年8月24日から26日まで、東北大学において開催された日本教育学会第53回年次大会に参加し、「アラン・ブルーム以降のアメリカ大学論」と題する研究発表を行った。

著作

- ①「アブダクションと授業」『教育のなかの政治：教育学年報3』世界書房，1994，333-354.
- ②(翻訳)D. C. リンドバーク R. L. ナンバーズ編 渡辺正雄監訳『神と自然——歴史における科学とキリスト教』みすず書房，1994，21-82.

その他

- ①米国 History of Education Quarterly 編集委員
- ②教育哲学会『教育哲学研究』欧文校正係

林 昭 道 助教授

研究活動

- ①ヨーロッパ思想史研究，特に近代以降の教育の諸概念の成立の流れを追う。

②キリスト教教育思想史

町田 健一 助教授

研究活動

- ①義務教育レベルにおける私立学校調査
 - ・建学の精神とその取り組みの歴史
 - ・一貫教育の意義と問題点
 - ・寮教育の意義と問題点
- ②教育課程の革新とその実施に関する研究
- ③数学教育研究
 - ・数学教育の目標論及び教育内容の精選と構造化
 - ・問題解決学習における効果的な内言形成
 - ・コンピューター教育の目的と問題点
- ④生徒指導に関する研究
 - ・道徳教育における教育哲学と問題点
 - ・性教育における教育哲学及び教育内容
- ⑤教員養成に関する研究
 - ・教育実習体験の実証的研究：態度変容についての日誌分析
 - ・キリスト教学校教育における教師教育の課題

学会及び研究大会参加・発表

- ①日本教育心理学会 第35回大会，名古屋国際会議場，1993年10月8日
発表 「ノート指導による学習態度形成と学習指導効果」
- ②キリスト教学校教育連盟 大学部会 研究集会，浜松グランドホテル，1993年
11月18日～19日 参加
- ③関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会・東京地区教育実習研究連絡協議会
1994年度研究大会，成蹊大学，1994年5月8日
発表 「教育実習体験の実証的研究：実習日誌の分析を通して」
- ④日本キリスト教教育学会 第6回大会，東洋英和大学，1994年5月28日
発表 「キリスト教学校教育における教師教育の課題」
- ⑤日本カリキュラム学会 第5回大会，東京大学，1994年7月2日～3日 参加

研究論文

- ①「ノート指導による学習態度形成と学習指導効果」 『日本教育心理学会 第35回総会発表論文集』 第35巻, 1993年10月, 239頁
- ②「道徳教育の基礎—内村鑑三の道徳論と西村茂樹の道徳論の対比から—」 『教育研究』 第36巻, 1994年3月, 217 - 233頁
- ③“Process Mnemonics as Inner Speech.” Educational Studies, Vol.36, March 1994, pp.235-246
- ④「キリスト教学校教育における教師教育の課題」 『日本キリスト教教育学会 第6回大会発表論集』 1994年5月28日, 6頁

その他

- ①講師として参加：ICU 修養会 「キリスト教大学の可能性を問う」
御殿場東山荘, 1993年9月1日～2日
- ②研究発表：「学生の教育実習体験の実証的研究：態度変容（高校物理）」
東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員会, 明治学院大学, 1993年11月10日
- ③執筆：「認識を新たに：研究集会に出席して」『キリスト教学校教育』
第376号, キリスト教学校教育同盟, 1994年1月15日, 3頁
- ④研究発表：「態度変容研究のまとめ方」東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員会, 明治学院大学, 1994年3月8日
- ⑤講演：「生き方を問う教育」ICU フレッシュマン リトリート
河口湖 サニーデ・ピレッジ 1994年5月20日
- ⑥ICU 教育セミナー 世話人（準備委員）1992年4月～
- ⑦東京地区教育実習研究連絡協議会 研究委員 1993年2月～

永田 佳之 副手（教育研究所助手 兼任）

研究活動

- ①国際教育協力
- ②新教育理論・実践
- ③国際理解教育・開発教育
- ④「諸外国における高等教育機関の選考制度についての調査・研究」（千葉果弘, 岡林秀樹, 小島文英との共同研究）

学会発表

題名：国際相互理解を目指した海外ワークキャンプ（共同研究）

学会名：日本国際理解教育学会

場所：国連大学本部

年月：1994年2月6日

論文等

- ①「学生不在の大学改革」, 国際基督教大学学報『教育研究』36号, 1994年, (共著)
- ②「国際理解を目指した海外ワークキャンプ」(共著)
《第19回, 帝塚山学院大学国際理解研究所, 国際理解教育奨励賞論文入賞》
- ③「ネパール識字活動モニタリング・評価調査報告書」1994年4月, 日本ユネスコ協会連盟
- ④国際理解教育教材『アジアの仲間たち』(日本ユネスコ協会連盟)「教師のための手引き」編集・作成協力
- ⑤タイ・カンチャナブリ市 戦争博物館 展示物解説 日本語訳 資料集(監訳)

評価調査

ネパール識字活動モニタリング・評価調査(カトマンズ, ゴルカ, タナフ地区)1994年3月13～23日(現地NGOとの共同調査)

会議およびワークショップ等

- ①第二回世界寺子屋運動識字教育振興会議(名古屋), 1993年9月1～6日
- ②International Consultative Forum on Education For All-Second Meeting, Delhi, 8th-10th Sept. 1993.
- ③Education For All NGO Network Meeting, Delhi, 7th-11th Sept. 1993.
- ④Review of and Future Prospects for the Unesco Co-Action *Terakoya* Movement in Nepal, Kathumandu, 11th-12th March, 1994.
- ⑤第40回全国高校ユネスコ研究大会(岡山), 「識字教育」分科会講師

講演活動

「アジアにおける識字教育の現状と課題」, 福島ユネスコ協会, 1994年9月7日

その他

日本ユネスコ協会連盟 国際協力委員会 識字専門協力員

原 田 一 成 副 手

研究活動

- ①私立高校経営 及び 私学行財政に関する研究
- ②「私学の存在異義に関する調査研究：建学の精神と独自の教育課程作り」
(町田健一・岡林秀樹・目黒賢哉との共同研究) 1994年7月～現在実施中

著作・論文

- ①「私立高校における私費・公費収入に関する理念途方についての一考察」
(財)日本私学教育研究所 調査資料189 「私立高校経営の研究(5)―私学財政研究会報告―」 pp.43 - 53 収録
- ②「学生不在の教育改革」(分担執筆)
国際基督教大学報 I - A 『教育研究』36号, 1994. pp.55 - 101

その他

(財)日本私学教育研究所 私学財政研究会会員

<心理学研究室>

1. 人の動き

(1) 学内人事

1993. 11. 30 川上嘉絵, 非常勤副手を退任。

1994. 3. 31 原一雄教授, 本学を退任され, 亜細亜大学に就任。

清田真由美, 岡田恵美子, 岡本直樹, 非常勤副手を退任。

1994. 4. 1 藤永保教授, 研究休暇。

石橋玄, 湯野貴子, 丹羽絵美子, 非常勤副手に就任。

岡林秀樹, 大井直子, 石田純子, 斉藤哲, 佐々木真一, 佐柳信男, 前年度に引続き, 非常勤副手に再任。

(2) 非常勤講師

- 1993 秋学期 池田 央 (立教大学教授)
「GEPS 453 教育心理学演習Ⅱ」
- 岡村 達也 (専修大学助教授)
「EPS 361 臨床心理学演習」
- 佐治 守男 (日本精神技術研究所所長)
「GEPS 464 教育心理学演習Ⅳ」
- 苦米地憲昭 (ICU カウンセリングセンター主任)
「EPS 341 精神保健」
- 1993 冬学期 佐治 守男 (日本精神技術研究所所長)
「GEPS 566 ガイダンス・カウンセリング研究Ⅲ」
- 鳥居 修晃 (聖心女子大学教授)
「EPS 352 知覚心理学」
- 永田 良昭 (学習院大学教授)
「EPS 170 社会心理学」
- 井上 直子 (白梅学園短期大学)
「EPS 160 ガイダンス・カウンセリング研究」
- 1994 春学期 青木 孝悦 (千葉大学教授)
「GEPS 444 教育心理学研究Ⅳ」
- 石塚 正一 (国際武道大学助教授)
「EPS 315 心理統計Ⅱ」
- 中村 陽吉 (学習院大学教授)
「EPS 370 対人関係の心理学」

2. 研究活動

(1) 心理学談話会・講演会

1993. 12. 14 岡林秀樹 フォーラム
「ICUにおける大学生の人生観と教育環境の時代的変遷
—1960年代から1990年代にかけて—」
於 シーベリー・チャペル
1994. 1. 18 原 一雄教授 フォーラム

「ICUの心理学：きのう・きょう・あした」

於 シーベリー・チャペル

(2) 論文発表会

1993. 10. 19 修士論文中間発表会
 10. 29 卒業論文中間発表会
1994. 1. 18 修士論文発表会（発表者 清田真由美）
 2. 9 卒業論文発表会（発表者 25名）
 3. 4 「博士学位論文報告」発表会（発表者 巖岩秀章）
 5. 24 6月卒業生修士論文発表会（発表者 野中純子）
 6. 7 6月卒業生卒業論文発表会（発表者 5名）
 6. 14 修士論文中間発表会（発表者 7名）

(3) 心理学サマー・セミナー

1994. 7. 4～6 （2泊3日）「心理学とは何か」
 於 八王子セミナーハウス 参加者 教員2名、院生・学部生44名
 （実行委員長：青山浩子、アドバイザー：向井敦子）

3. その他

1994. 2. 15 原 一雄教授最終講義
 「私の心理学—“人となり”の生物社会的小発生学—」
 2. 15 原 一雄先生に感謝する会 於 ICU 食堂
 2. 25 非常勤講師慰労会 於 聘珍樓

藤 永 保 教授

研究活動

- ①国際学術研究「日韓乳幼児における母子相互作用の比較文化的研究」のため、1994年3月、5月に渡韓、また、8月には韓国共同研究者の訪日を迎え、再度にわたって現在までの研究成果と今後の計画につき、相互の報告、意見交換、討議を行なった。

- ②「初期環境と認知発達」に関する研究で、発達科学研究教育センターより奨学寄付金を受け研究を行なっている。

学会発表・参加

- ①日本発達心理学会第5回大会シンポジウム「3歳未満児における保育（Day Care）の質をめぐる一保育者のあり方を中心に」話題提供者として発題（於 東北福祉大学）1994年3月

著作活動

- ①「初期記憶の研究(2) 記憶心像と自己対象化」『発達研究』Vol.9 pp.1～12 1993年12月
- ②「早期教育・英才教育—幼児の可能性」岡本夏木・高橋恵子・藤永 保（編）幼児の生活と教育 第1巻『幼児教育とは』 第5章 pp.109～138 岩波書店 1994年4月
- ③「育児・しつけ・生活環境」同上 第2巻『生活と文化』第1章 1994年5月
- ④「数量概念の発達に関する縦断的研究(1)」(共著)『発達研究』Vol.9 pp.13～22 1993年12月
- ⑤編集(岡本夏木・高橋恵子と共編)『講座 幼児の生活と教育』全5巻 岩波書店 1994年4月～8月

その他

- ①幼児教育者サミット 第1回大会 講演「よみかき能力と初期発育の可能性」 1993年11月
- ②日本発達心理学会関西懇話会 第2回大会 講演「東と西の子ども観—比較文化的アプローチ」 1993年12月
- ③母子愛育会講座「幼児期の発達」 1993年12月

栗山 容子 准教授

研究活動

- ①低出生体重児の多面的発達のフォローアップを継続して行っている。3歳までの観察をほぼ終了し、4歳から6歳までの観察及び子どもへの発達検査、母親に対する調査の準備と1歳半までの資料の分析を行っている。

- ②親の子どもの社会化に対する関わりを発達の的に検討するため、縦断的に父親、母親、子どもの3者観察を実施、検討している。現在21ヶ月児の観察を継続中。
- ③英語聴解力の入試に関わる問題を主として問題回答者の側の諸要因との関連で探索的に調査研究を行っている。

学会発表

- ①「乳幼児の社会化にかかわる母親の方略(1) 観察方法と総合的結果」
- ②「乳幼児の社会化にかかわる母親の方略(2) 事物操作にかかわる母親の働きかけの分析」
- ③「乳幼児の社会化にかかわる母親の方略(3) 象徴性のある働きかけ」
- ④「乳幼児の社会化にかかわる母親の方略(4) 文化・社会化に関する情報をどのように与えているか」
- ⑤「乳幼児の社会化にかかわる母親の方略(5) 象徴的遊びにおける母子のかかわり」
(発表者)

日本教育心理学会第35回総会 1993.10.8-10 於 名古屋大学 共同発表

- ⑥「低出生体重児の縦断研究—12ヶ月時の母親の子どもに対する感情・意識—」(発表者)
- ⑦「低出生体重児の縦断研究—ハイリスク時の多面的発達フォローの早期介入効果—」
- ⑧「低出生体重児の縦断研究—発達検査から見たハイリスク児の発達過程—」
- ⑨「低出生体重児の縦断研究—一般を対象とした妊婦前半・後半、育児開始期における意識調査—」
- ⑩「低出生体重児の縦断研究—母子相互交渉過程の分析—」
- ⑪「低出生体重児の縦断研究—母子関係が及ぼす食事への影響」

日本小児保健学会第40回 1993.10.14-16 於 金沢観光会館(前川喜平他との共同研究)

小谷 英文 準教授

研究活動

①精神療法技法

- 1) 個人精神療法 2) 集団精神療法 3) コンバインドセラピー 4) インテンシヴセラピー, 等各種治療的介入法の検討, 開発と技法構成のシステム論的研究 5) ケースマネジメント技法

②難治事例の心理力動理論

- 1) 性格障害の治療的要因 2) 精神分裂病の適応機制 3) シゾイドプロセスの力動的解明と治療理論 4) 女性のエディプスコンプレックスの力動論

③精神療法のトレーニングメソッドの開発とシステム化

④応用

- 1) 精神療法理論の教育現場への応用 2) 精神療法理論の看護技法への応用 3) 精神療法理論の企業内人事マネジメントへの応用 4) 相談組織のシステムデザイン

学会発表等

- ①「精神分裂病の集団精神療法（1）—治療効果の実態—」（杉山恵理子・小谷英文・西村馨・井上直子・西川昌弘・能幸夫）日本心理学会，早稲田大学 1993年9月9日
- ②「精神分裂病の集団精神療法（2）—定義と治療効果—」（井上直子・小谷英文・西村馨・杉山恵理子・西川昌弘・能幸夫）日本心理学会，早稲田大学 1993年9月9日
- ③「精神分裂病の集団精神療法（3）—効果研究の諸問題と今後の展望—」（西村馨・西川昌弘・小谷英文・杉山恵理子・井上直子・能幸夫）日本心理学会，早稲田大学 1993年9月9日
- ④「精神分裂病の集団精神療法（4）—治療技法の構成—」（小谷英文・井上直子・西村馨・杉山恵理子・西川昌弘・能幸夫）日本心理学会，早稲田大学 1993年9月9日
- ⑤「精神分裂病の集団精神療法—治療過程と治療要因」（杉山恵理子・小沢良子・小谷英文・長谷川美紀子）日本集団精神療法学会，埼玉県立精神保健総合センター，1994年1月22日
- ⑥「個人精神療法に影響を与える集団精神療法について」（鈴木義也・井上直子・小谷英文・西村馨）日本集団精神療法学会，埼玉県立精神保健総合センター，1994年1月22日
- ⑦「CCRT法の集団精神療法への適用の試み」（西村馨・井上直子・鈴木義也・小谷英文）日本集団精神療法学会，埼玉県立精神保健総合センター，1994年1月22日
- ⑧ワークショップ「力動的集団精神療法の技法」日本集団精神療法学会年次研修ワークショップ，埼玉会館，1994年1月20日
- ⑨学会シンポジウム座長（小谷英文・野中猛）「集団を対象とする治療・援助の計画と効果：さまざまなグループワークにおける集団力動とは何か」日本集団精神療法学会，埼玉県立精神保健総合センター，1994年1月22日

- ⑩ 51st Conference, American Group Psychotherapy Association, February 17-19, Washington D.C., Participated in “Dr. Scheidlinger’s Workshop for Advanced Group Psychotherapists” and also “Workshop on Mini Groups” organized and led by Dr. Saul Scheidlinger.
- ⑪ Dr. Pinney’s Round Table on “Mental Matrix in Group Psychotherapy” held in Washington D.C. February 18, Co-organizer.

論文・著作

(1) 共著書

- ① 岡堂哲雄編「心理面接学」垣内出版 1993年11月30日
V-1『集団療法』（巖波秀章・井上直子と共著）pp.259-276
- ② 都留春夫監修 小谷英文・平木典子・村山正治編集「学生相談」星和書店 1994年5月12日 282Ps

(2) 論文

- ① 「集団精神療法の現在」こころの科学 巻頭論文 1994, Vol.53, 2-8.
- ② 「精神分裂病の集団精神療法技法：治療過程展開点の力動と技法」集団精神療法 1994, Vol.10(2), 39-47.
- ③ 「グループとカウンセリング」教育と医学 1994, Vol.42, No.6, 39-44.

(3) 調査報告書

- ① (研究代表) 日本集団精神療法学会集団精神療法効果研究センター編「学術調査報告書 集団精神療法の定義と効果」(厚生省精神保健課へ提出), 1993年5月 全51頁。

講演・ワークショップ等

- ① 講演「臨床人格理論の有用性」家庭裁判所調査官研修所, 1993年10月26日
- ② ワークショップ「集団精神療法技法」新潟県立病院悠久荘, 1993年11月2日
- ③ ワークショップ「リスニング技法の理論と実際」静岡県精神保健センター 『産業精神保健講座』1994年1月18日
- ④ ワークショップ「カウンセラーのための応答構成トレーニング」, 於, 日本精神技術研究所 NPCC ワークショップ 1994年3月25日-28日
- ⑤ 名古屋大学心理教育研究会ワークショップ「精神分析的システムズ：講義と事例研究指導」, 於, 名古屋大学, 1994年6月11日-12日

- ⑥日本集団精神療法学会「タットマン博士 (Saul Tuttman, M.D., Ph.D.) の集団精神療法ワークショップ」コ・オーガナイザー, 於, アメリカンクラブ東京 1994年6月24日
- ⑦第4回ICU心理教育臨床研究発表会主宰, アメリカ精神分析学会議長 Dr.Saul Tuttman をご招待の上検討討議, 於, ICU 1994年6月25日
- ⑧集中講義「臨床心理学」, 於, 広島大学学校教育学部 1994年7月18日-21日

研究助成金

- ①日本集団精神療法学会委託研究「集団精神療法の定義と効果」1993年度
- ②厚生科学研究費補助金「精神科コンサルテーション・リエゾン医療等に関する研究(集団精神療法班)」(代表 長谷川美紀子)1993年度

学会・研究団体における役職

- ①日本集団精神療法学会 常任理事 1986年4月～現在
- ②日本集団精神療法学会学会誌「集団精神療法」「編集委員」1986年4月-1994年3月
- ③同上 編集委員長 1994年4月-現在

ディヴィッド W. ラッカム準教授

Research Activities

- Psychological correlates of climatological variables
- Social consciousness in traditional/transitional communities in Japan and Canada (with Sumiko Hattori, IERS Research Associate)
- Development of a new en route air traffic control information display console from an information processing perspective (with Hiroki Sato, Electric Navigation Research Institute, Japanese Ministry of Transport, Mitaka, Tokyo, Japan)
- Psychology in the public forum
- Psychological health, spiritual health, and their interrelationships

Conference Attendances and Presentations

- Council of Cooperation/Kyodan-Related Missionary conference, March, 1994.

Publications

–Rackham, D.W. (1994). Environmental crises and environmental studies: a role for psychology. *Educational Studies*, 36, 247–274.

Other Activities

- English language proof-reading services for Japanese Group Psychotherapy Association
- Member, Board of Trustees, American School in Japan (ASIJ)
- Subscription and circulation services on behalf of *the Japan Christian Review*
- Coordinator/Animator, weekly adult class, West Tokyo Union Church
- A variety of ongoing activities of an educational and service nature in connection with overseas personnel/misionary associate status with the United Church of Canada and the United Church of Christ in Japan (Kyodan).

向井 敦子 講師

研究活動

- ①算数文章題解決にみられる論理構造の獲得
- ②作文及び算数における自発的発見学習の実践的試み
- ③教授学習状況における教授者と学習者の相補作用
- ④対人過程における心理学的意味の規定因の考察

研究発表

- ①「算数文章題の構造と誤答傾向の分析」日本心理学会第 57 回大会発表論文集, 601 頁, (於 早稲田大学) 1993 年 9 月
- ②「臨床法によるたし算とかけ算の意味の自己発見過程」日本教育心理学会第 35 回総会発表論文集, 445 頁, (於 名古屋大学) 1993 年 10 月

大井 直子 副手

研究活動

大学生の価値志向の縦断的研究

学会発表

「大学生の価値観（7） 人生観の縦断的研究Ⅲ」
日本心理学会第57回大会（於 早稲田大学）1993.9.8

著作

「大学生と両親の人生観に見られる時代的变化」国際基督教大学学報 I-A 教育研究 36,
pp.103-124, 1994

岡 林 秀 樹 副手（教育研究所助手 兼任）

研究活動

- ① ICU 博士学位論文中間報告（1993年11月16日）
「大学生の価値態度と教育環境評価との関連」
- ② ICU 心理学研究室フォーラム（1993年12月14日）
「ICUにおける大学生の人生観と教育環境の時代的変遷－1960年代から1990年代にかけて－」
- ③ 「諸外国における高等教育機関についての選考制度の調査・研究」（千葉果弘，永田佳之，小島文英との共同研究）1994年4月～現在実施中
- ④ 「私学の存在意義に関する調査研究： 建学の精神と独自の教育課程作り」（町田健一・目黒賢哉・原田一成との共同研究）1994年7月～現在実施中
- ⑤ 学生による授業評価表の分析（於 一般教育プログラム主任室）1991年4月～現在実施中

学会発表

日本心理学会第57回大会（1994年9月8～10日，於 早稲田大学）にて，
原 一雄・大井直子と以下の共同発表を行なう。

- ① 「大学生の価値観（6）－SD法による分析－」日本心理学会第57回大会発表論文集 p.34. 1994.
- ② 「大学生の価値観（7）－人生観の縦断的研究Ⅲ－」日本心理学会第57回大会発表論文集 p.35. 1994.
- ③ 「大学生の価値観（8）－人生観質問紙の簡略化－」日本心理学会第57回大会発表論文集 p.36. 1994.

研究論文

- ①「ICUの教育環境の時代的変遷－1983年度と1993年度の比較－」教育研究（国際基督教大学）36, p.125-139. 1994.
- ②「大学生と両親の人生観にみられる時代的变化」教育研究（国際基督教大学）36, p. 103-124. 1994.
（上記総て、原 一雄・大井直子との共著）

〈視聴覚教室研究室〉

1. 人の動き

1994年4月：中野照海教授，特別研究期間が終わり帰任。

阿久津喜弘教授が特別研究期間に入る。

和田正人，海後宗男，渡辺功，石川勝博，大伴朝美，叶谷彰子，南之園博美が昨年に続き副手に就任した。

1994年5月：橋本昭恵，大貫恵理子が副手に就任。

また，次の副手が辞任した。

1994年3月辞任：加藤由香里

2. 研究活動

(1) 日本視聴覚教育学会第30回・日本放送教育学会第38回合同大会

本研究室に事務局を置く日本視聴覚教育学会及び日本放送教育学会の合同大会が江戸川大学を当番校とし，1993年11月20日，21日の両日にわたり開催された。シンポジウム及び課題研究は次のようなテーマで行なわれ，中野照海教授，阿久津喜弘教授，石本菅生教授，及び大学院生が参加した。

- ・シンポジウム：「マス・メディアと批判的視聴能力」
- ・課題研究：「教育テレビ番組の評価」「コンピュータ時代のリアリティ」

(2) 共同研究

川本佳代, 叶谷彰子, 草野宗子, 南之園博美は, 日本視聴覚教育協会が受け, 昭和 63 年度より行われている文部省補助金による平成 5 年度「マルチメディアの自作と活用—ハイパーメディア教材の開発研究の記録—」(座長: 中野照海)に参加し, ハイパーメディア教材の開発を継続して行なった。平成 6 年度には, 同研究を川本佳代, 草野宗子, 南之園博美, 叶谷彰子, 大貫恵理子が引き続き行なっている。

中野 照海 教授

研究活動

- ①教育メディアの発達史編纂(文部省科学研究費助成継続, 放送教育開発センター研究プロジェクト, 共同研究者)平成 5 年度
- ②文部省研究開発事業助成「視聴覚教育メディア研修マニュアル・ビデオ」の開発(開発委員会主査)平成 5 年度
- ③融合型マルチメディアの教育利用に関する研究(文部省科学研究助成, 共同研究者)平成 5 年度
- ④マルチメディア等の教材の教育利用に関する開発研究—マルチメディアの自作の方法を中心に(文部省研究依託・日本視聴覚教育協会, 第 3 年次研究助成)座長, 平成 5 年度, 平成 6 年度
- ⑤マルチメディア研修計画に関する基礎調査(文部省学習情報課委嘱研究・主査)主査平成 5 年度, 6 年度

上記の研究費助成を得て行なっている研究の他に, マルチメディア/ハイパーメディアの教育利用に関する研究, メディア研修マニュアルの開発, 視聴覚教育の評価に関する研究, 教育過程における画像の機能に関する基礎的研究, 「教育の方法及び技術」の構成に関する研究, 視聴覚教育メディア研修カリキュラムの開発, 教育メディアに関わる海外技術移転の研究, 人口教育における IEC のための方略策定に関する研究に興味を持って, 少しずつ研究を進めている。

学会発表等

- ①座長・司会「課題研究: コンピュータ時代のリアリティ」日本視聴覚教育・放送教育学会連合大会(江戸川大学)11月20日1993年
- ②司会・報告「教育メディア研究の課題」日本視聴覚・放送教育学会発足記念研究会

(於上智大学) 3月26日 1994年

論文・著作等

(1) 研究論文

- ①「課題研究：コンピュータ時代のリアリティ」座長 日本視聴覚教育第30回・放送教育学会第38回合同大会研究発表論文集 1993年 49頁
- ②「まえがき」, 「第1章 本開発研究事業の背景と目的」5 - 10頁, 「第6章 研究の総括と展望」107 - 111頁, 『文部省助成研究報告書——マルチメディアの自作と活用——ハイパーメディア教材の開発研究の記録——』日本視聴覚教育協会 1994年
- ③「マルチメディア研究の背景」『科学研究費助成報告書——融合型マルチメディアの教育利用に関する研究』1994年 3 - 8頁
- ④「マルチメディアの自作にあたって——その教育的機能を生かすために」『視聴覚教育』1994年5月 24 - 31頁

(2) 著書

- ①「1 教育の方法と技術のとらえ方」教育技術研究会編『教育の方法と技術』ぎょうせい 1993年 1 - 19頁
- ②「第1章 マルチメディアとこれからの教育」『マルチメディアの教育利用と学習指導』(坂元昂他編) 日本教育新聞社 1994年 21 - 34頁
- ③「教育と放送の間を歩んだ20回」NHK編『「日本賞」20回の歩み』NHK 1994年 16 - 20頁
(英語版) “29 Years in Education and Broadcasting,” NHK ed. COMING OF AGE - IN COMMEMORATION OF THE 20TH JAPAN PRIZE -, NHK, 1994. pp. 16 - 20
- ④(調査報告書) ホンジュラス国立教育研究所研究協力プロジェクトのための実施調査(国際協力事業団派遣事業部) 1994年3月 全28頁

(3) その他の出版物

- ①「映像の効果にせまる研究の芽生え——多彩な視聴覚教育の実践から——」『視聴覚教育』12月号 1993年 34 - 37頁
- ②「マルチメディアを活用した視聴覚教育の課題」『平成5年度マルチメディア教材開発養成講座』文部省学習情報課 1993年 11 - 18頁

- ③「視聴覚教育メディア研修マニュアルの作成」『平成6年度視聴覚教育指導者講座』
文部省学習情報課 1994年 18 - 28 頁
- ④「マルチメディアの意味と機能」『マルチメディア・ワークショップ』日本視聴覚教育協会 1994年 6 - 12 頁
- ⑤「変化に対応する視聴覚教育——無声映画からマルチメディア——」日本視聴覚教育連合会編『視聴覚教育機器ハンドブック 95年版』1993年 10 - 11 頁

(4) 専門関連エッセー

- ①「教具としてのワープロ」『視聴覚教育』9月号 1993年 40 - 41 頁
- ②「情報教育方法研究コンテスト——私立大学情報教育協会大会——」『視聴覚教育』10月号 1993年 44 - 45 頁
- ③「マルチメディアという意味——教育工学会第9回大会から——」『視聴覚教育』11月号 1993年 42 - 45 頁
- ④「カレッジ・テキスト——アメリカ大学教育の良さ——」『視聴覚教育』12月号 1993年 54 - 55 頁
- ⑤「生涯学習時代の教育放送——第20回日本賞教育番組コンクール——」『視聴覚教育』1月号 1994年 41 - 41 頁
- ⑥「用語の規定——マルチメディアに関連して——」『視聴覚教育』2月号 1994年 44 - 45 頁
- ⑦「学習活動のモジュール化——マルチメディアの研修——」『視聴覚教育』3月号 1994年 44 - 45 頁
- ⑧「新しい学力観と構成主義学習観」『視聴覚教育』4月号 1994年 44 頁
- ⑨「視聴覚教育メディア研究の復権——コンピュータ技術との結合——」『視聴覚教育』5月号 1994年 53 頁
- ⑩「講義と教科書の分かり易さ——コミュニケーションの問題」『視聴覚教育』6月号 1994年 44 頁
- ⑪「テクノロジーを教えること」『視聴覚教育』7月号 1994年 55 頁
- ⑫「映像を語るメタ言語の必要性——日本視聴覚・放送教育学会第1回研究会より」『視聴覚教育』8月号 1994年 55 頁
- ⑬「四季の感覚」『視聴覚教育』1月号 1994年 34 - 35 頁

(5) 教材開発

『マルチメディアの技法——作り方の実例』（文部省助成視聴覚教育メディア研修シリーズ・ビデオ 30分 10秒）開発委員会主査 1994年

その他

(1) 講演・放送等

- ① 講義「生涯教育から見た情報教育の課題」国立社会教育研修所 10月21日 1993年
- ② 番組審査「日本賞教育番組国際コンクール」(NHK 東京) 11月9日ー18日 1993年
- ③ ラジオ国際放送「日本賞教育番組国際コンクールの展望」 11月19日 1993年
- ④ NHK テレビ「テレビで学ぶ世界の子どもたち」 11月21日 1993年
- ⑤ 講義「学校教育と情報化」国立教育会館筑波分館 1月20日 1994年
- ⑥ 講義「マルチメディアの意味と機能」文部省学習情報化マルチメディア開発研究研修会(国立教育会館筑波分館) 1月24日 1994年
- ⑦ 講演「新しい学力観とマルチメディアの活用」埼玉県視聴覚教育研修会 1月25日 1994年
- ⑧ 講義「マルチメディアの意味と教育的機能」マルチメディア・ワークショップ(文部省委託・日本視聴覚教育協会) 2月4日 1994年
- ⑨ シンポジウム指定討論者『マルチメディアの教育的機能』教員養成系大学学部教官研究集会(東京学芸大学) 2月18日 1994年
- ⑩ ホンジュラス国立教育研究所研究協力プロジェクトのための実施調査(国際協力事業団による研究協力プロジェクト調査団長) 1994年3月10日ー24日
- ⑪ Special Lecture “New Directions of Audiovisual Communications” 国際協力事業団 沖縄国際センター 5月2日ー3日 1994年
- ⑫ 講義「学校教育と情報化」国立教育会館筑波分館 6月16日 1994年
- ⑬ 講義「視聴覚教育メディア研修マニュアルの作成」平成6年度視聴覚教育指導者講座(文部省学習情報課主催, 於国立社会教育研修所) 7月14日 1994年
- ⑭ 講義「マルチメディアの意味と教育的機能」マルチメディア・ワークショップ(日本視聴覚教育協会主催, 於科学技術館) 7月21日 1994年
- ⑮ 講演「マルチメディアの教育的意義」文部省研究指定校研究会(於文部省) 8月23日 1994年

(2) 学会・研究団体・審議会等における委員・役職

(*印は1993年度, 1994年度のみのもので, それ以外は現在も継続中)

- ① *日本視聴覚教育学会理事, 学会誌『視聴覚教育研究』編集委員
- ② *日本放送教育学会理事, 学会誌『放送教育研究』編集委員長(両学会は合併し, 日本視聴覚, 放送教育学会と名称変更になった結果, 同学会副会長)

- ③日本教育工学会理事，運営委員，国際協力委員
- ④文部省生涯学習審議会特別委員
- ⑤文部省生涯学習審議会社会教育分科審議会委員
- ⑥文部省生涯学習審議会通信教育部会委員
- ⑦文部省生涯教育審議会教育メディア部会長代理
- ⑧文部省社会教育分科審議会教育メディア部会「新しい教育メディアの応用に関する調査研究協力者会議」委員，「マルチメディアの教育利用研究協力者会議」委員，「視聴覚教育センター・ライブラリー検討委員会」委員・同委員会草稿作成小委員会主査
- ⑨国立放送教育開発センター客員教授
- ⑩国立民族学博物館情報システム委員会委員
- ⑪国際協力事業団医療協力検討部会委員
同トルコ IEC プロジェクト国内委員会座長
同チュニジア IEC プロジェクト国内委員会座長
同ホンデュラス国立教育研究所研究協力委員会座長
- ⑫*国際協力事業団「開発と教育」援助検討委員会委員（平成5年度）
- ⑬* NHK 学校放送中央諮問委員会委員（平成5年度）
- ⑭教育ソフト開発国際協力会議代表
- ⑮「視聴覚教育賞（文部大臣賞）」（文部省・日本視聴覚教育協会）選考委員会委員長
- ⑯財団法人日本視聴覚教具連合会会長
- ⑰財団法人日本視聴覚教育協会理事
- ⑱*「第20回日本賞国際教育番組コンクール」審査委員会副委員長（平成5年）
- ⑲*「第1回情報教育方法研究会発表会」私立大学情報教育協会（平成5年度）審査委員会委員長

石本 菅生 教授

研究活動

- ①C A I システムの開発研究
数年来，主としてC A I プログラムシステムの開発と教材基礎研究用の分析ツールの開発を中心に，外国語学習のためのコンピュータ支援システムの研究を行った。
- ②大学における情報教育カリキュラム等に関する研究
私立大学情報教育協会情報教育研究委員会の仕事として，各学問領域の専門教育に

における情報教育の目指すべき方向の策定を行っており、特に教育学の領域における情報教育カリキュラムの研究調査を担当している。

③入学試験の研究

入試研究主任の職務として、入学試験データと学業成績の関連、合格判定基準の再検討のための分析を行っている。

学会研究団体における役職

- ①日本視聴覚教育学会理事 1986 - 1994 / 7
- ②日本放送教育学会理事 1989 - 1994 / 7
- ③日本視聴覚・放送教育学会設立準備委員 1993 / 7 - 1994 / 7
- ④日本視聴覚・放送教育学会理事 事務局長 1994 / 7 -
- ⑤日本教育工学会編集協力者 1989 -
- ⑥社団法人私立大学情報教育協会
 - ・情報教育研究委員会委員 1991 -
 - ・情報教育方法研究会運営委員 1992 -
 - ・情報教育方法研究賞審査委員 1993, 1994
 - ・相談助言協力者 1993 -

阿久津 喜弘 教授

研究活動

- ①「メディア行動」に関する研究
- ②「教育コミュニケーション研究」の体系化

学会発表

- ①「テレビ番組別の接触行動に関する研究(5)」(和田正人・海後宗男・渡辺功との共同研究)日本教育社会学会第45回大会(1993年10月9-11日,日本女子大学人間社会学部)
- ②「テレビ暴力番組の反社会的行動に与える効果の研究」(佐々木輝美・和田正人・海後宗男・渡辺功との共同研究)第30回日本視聴覚教育学会・第38回日本放送教育学会合同大会(1993年11月20日-21日,江戸川大学社会学部)
- ③「テレビ報道番組の充足類型に関する研究」(佐々木輝美・和田正人・海後宗男・渡辺功との共同研究)第30回日本視聴覚教育学会・第38回日本放送教育学会合同大

会（1993年11月20－21日，江戸川大学社会学部）

- ④「高校生のテレビ接触行動に関する実証的研究」（和田正人・海後宗男・渡辺功・石川勝博との共同研究）日本子ども社会学会第1回大会（1994年6月11－12日，京都大学教育学部）
- ⑤「メディア関連欲求のテレビ視聴による充足に関する実証的研究」（和田正人・海後宗男・渡辺功・石川勝博との共同研究）日本マス・コミュニケーション学会1994年度春季研究発表会（1994年6月25－26日，琉球大学法文学部）

研究論文

「A Critical Analysis of “Balance Models” in Communication Research」『教育研究』（国際基督教大学学報I-A）36，1994年3月，141－176頁

その他

- ①日本視聴覚教育学会理事・編集委員（1994年3月まで）
- ②日本放送教育学会理事・編集委員（1994年3月まで）
- ③日本子ども社会学会理事・研究交流委員（1994年6月より）
- ④日本視聴覚・放送教育学会理事（1994年7月より）
- ⑤日本教育社会学会評議員

王 淑 英 助教授

Recent Research Activities

- ① “The Rise, Expansion and Meaning of Social Studies Instruction: A Cross-National and Longitudinal Study.”

** This research project is awarded a Spencer Fellowship by the National Academy of Education, U.S.A. First presentation will be made in October, 1995 hosted by Harvard University, U.S.A.

- ② “Professional Actions and Cultures of Teaching: International Studies of Teachers’ Work in Changing Context.”

** An interdisciplinary, international network of scholars and practioners who share a common interest in a broad range of issues affecting teaching, teachers’ work and teacher professionalism. Membership comprises research teams headed by senior scholars in Australia, Canada, England, Israel, Japan, Norway, Sweden and the

United States, Directing the project with Ken Shimahara (Rutgers University), Hidenori Fujita (Tokyo University) as one of the three national project directors for the Japan case, the research project is funded by the Canadian Social Sciences Research Council and the Japan Ministry of Education. Our preliminary research findings will be presented in March, 1995 hosted by Oxford University, U.K.

- ③ “The Impact of Science and Mathematics Education on National Economic Development: Cross-National and Longitudinal Analyses.”

** The project is a collaboration with Professors John W. Meyer, Francisco Ramirez and the Comparative Institutions Research team at Stanford University. The project is funded by the U.S. National Science Foundation.

Conference Presentations

- ① “Globalization of Mass Culture: the Role of International Professionals in the Construction of Modern Educational Culture,” invited talk delivered to the Seminar on Comparative Social Institutions, Department of Sociology, Stanford University, California, June, 1994.
- ② “Trends and Developments of International Comparative Studies in Education: the Asian and Pacific Region.” Round Table Presentation, Comparative and International Education Society, San Diego, Ca., March 21–25, 1994.

Publications

- ① “Asia: Southeast and East: Adult Education and Training,” (co-authored) in Husen, Torsten and Postlethwaite, T.N. (eds.), International Encyclopedia of Education, second edition. Oxford: Pergamon Press, 1994.
- ② “Higher Education and Social Development in the South Pacific” in Perspectives of Distance Learning: the South Pacific Experience. Research Paper Series, National Inst. of Multimedia Education (NIME), Japan: March, 1994.
- ③ “Adult Education in Japan: Some Recent Reforms,” in International Directions in Education, Commonwealth Council for Educational Administration, Melbourne: August, 1994.
- ④ Distance Education in Asia and the Pacific: Country Papers (co-editor). New Papers on Higher Education Studies and Research. Paris: UNESCO, 1994.(459 pp).

Other Professional Activities

Journal Reviewer, Sociology of Education, American Sociological Association (since 1992).

Visiting Scholar, Department of Sociology, Stanford University (Since September, 1993).

Research Grant Review Committee, University and Polytechnic Grant Committee (UPGC), Hong Kong (Since June, 1994)

和田 正人 副手**研究活動**

マス・メディア接触行動に関する研究

学会発表

1994年6月11日, 第1回日本子ども社会学会大会(京都大学)において, 「高校生のテレビ接触行動に関する実証的研究」を発表(阿久津喜弘, 和田正人, 海後宗男, 渡辺功, 石川勝博との共同研究)。

海後 宗男 副手**研究活動**

- ①マス・メディア報道のメディア・フレーム形成に関する研究
- ②マス・メディアによる社会的現実に関する研究

学会発表

1993年11月21日, 第30回日本視聴覚教育学会・第38回日本放送教育学会合同大会(江戸川大学)において, 「テレビ報道番組の充足類型に関する研究」を発表(阿久津喜弘, 佐々木輝美(独協大学), 和田正人, 渡辺功との共同研究)。

著 作

「マス・メディア報道源への接触量および信頼性と準統計能力に関する実証的研究」
放送教育研究 19号, pp.57-72, 1994年3月。

渡辺 功 副手

研究活動

- ①テレビ暴力に関する研究
- ②マス・メディアの教化理論に関する研究

学会発表

1993年11月21日、第30回日本視聴覚教育学会・第38回日本放送教育学会合同大会（江戸川大学）において、「テレビ暴力番組の反社会的行動に与える効果の研究」を発表（阿久津喜弘，佐々木輝美（独協大学），和田正人，海後宗男との共同研究）。

石川 勝博 副手

研究活動

- ①マスメディアの「利用と満足」に関する研究
- ②メディア関連欲求に関する研究

学会発表

1994年6月25日、日本マス・コミュニケーション学会1994年度春季研究発表会（琉球大学）において、「メディア関連欲求のテレビ視聴による充足に関する実証的研究」を発表（阿久津喜弘，和田正人，海後宗男，渡辺功との共同研究）。

〈英語教育研究室（English Teaching Department（ETD））〉

Professor Peter McCagg returned from leave after one year in the United States from the Autumn Term 1992 until September 1993. Graduate assistants from the English Language Teaching Department collaborated with Professor John Maher in the planning for an international symposium on the Ainu language and culture “The Ainu People of Japan” held in ICU, November 1993. This was a well-attended event with over 200 participants including members of local Ainu organisations and representatives from Hokkaido. In January 1994, Dr. Ludo Verhoeven of the University of

Tilburg, Netherlands visited the English Teaching Department. In addition to giving a lecture on the subject of language maintenance among language minorities in Holland. Graduate students were able to consult with Dr. Verhoeven about his work and their own current research.

小林 栄智 教授

研究・著作活動

1992年度から作製に取りかかった高等学校・新英語教科書は「Why English I」, 「Why English II」, 「Readings in English」, および「Writing in English」である。これらのうち、最後の Writing をのぞく3点はいずれも1994年度までに文部省の検定済みになった。「Writing in English」はわれわれ編集者の意図した内容が「学習指導要領」に合致していない、という文部省審査官の見解と完全に衝突する結果となった。文部省の示唆した「修正」或は「書き換え」は、われわれ編集にあたった者には到底受け入れられないものであった。この教科書に費やした精力と時間を考えると、いささか不本意なことではあるが、出版社も今回は「Writing in English」の出版を断念することにした。

高校英語教材には新しく“debate”が加わることになり、関係者はその扱いに苦慮している。この実情にかんがみ夏休みを利用して古代から中世にかけての“debate”形式を取り入れた文学作品を研究してみることにした。この研究をまとめた論文“The Form of *The Owl and the Nightingale*—In The Light of Medieval Debate—”は「教育研究」37号に掲載される予定である。

継続的な仕事である「英和辞典（初版1976年）」の全面改訂・増補は1994年度夏までに無事完了、新しいタイトルで1994年12月に出版されることになった。もう一点の「小型和英辞典（初版1988年）」の部分改訂も終了し、この12月に出版予定である。

学会参加

- ①日本中世英語英文学会東支部研究発表会
- ②全国英語教育学会山口研究大会

その他

- ①日本中世英語英文学会、評議員、1983 - 1994・3
- ②同学会誌編集委員、1993年 -

③日本英語学会, 評議員, 1987 -

ランドルフ H. スラッシャー 教授

Presentations, Seminars, and Conferences

- November 27, 1993 Measuring the English Proficiency of Company Entrants, A presentation to clients of the International Language Centre BETA testing program
- March 2-3, 1994 Conducted test design seminar at Osaka YMCA, Tosabori
- July 13-17, 1994 Attended the Australian Applied Linguistics Conference, Melbourne University

Publication

“Testing for placement, diagnostic assessment, and program evaluation”, in Seigakuin University Kiyo, March 1994

Research topics

The effects on ranking of candidates and on their part score results when an existing testing program switches from classical test theory item analysis to item response theory IRT.

The use of multi-dimensional space in deciding placement based on language proficiency when more than two traits are measured.

The use of Response Theory in the teaching of English as a foreign language.

Application

In March 1994, I supervised the staff of the International Language Centre Testing Office in the conversion of the multiple choice portion of the Businessman's English Test and Assessment (BETA) to IRT.

ジョン C. マーハ 準教授

Books

(1) Single Author

Linguistics and Japanese Language Teaching. Tokyo: Bonjinsha and the Japan Foundation. 1993. pp.138

(2) Co-editor

Atarashii Nihonkan. Sekaikan ni mukatte: Nihon ni okeru Gengo to Bunka no Tayosei. [Towards a New Order: Language and Cultural Diversity in Japan. [Ed. with Nobuyuki Honna](In Japanese). Tokyo Kokusai Shoin. 1994. pp.273

Working Papers

Editor

Profiles of 'Japonesia' : Language, Ethnicity and Power. (Ed.). Working Papers in Japan Studies. ICU. Japan Studies Program. 1994. pp.62

Articles

(1) Book Chapters

1. 'Tagengo-sei to Tabunka-sei' [Multilingualism and Multiculturalism. 1993. In Nihon Shakai no Minzoku-teki Kosei-Esunishitii no Shakaigaku. (Ed. Nakano and Imazu). Tokyo: Sekaishiso sha. pp.34-46.
2. With N. Honna. 'Atogaki' [Endpiece]. Nihon no Biringarizumu. 1991. pp.211-212.
3. With N. Honna. 'Hajime ni' (Preface). Atarashii Nihonkan. Sekaikan ni mukatte: Nihon ni okeru Gengo to Bunka no Tayosei. John Maher and Nobuyuki Honna (Eds.) Tokyo: Kokusai Shoin. 1993 (in press).
4. Shigo to iu Shinwa: Ainugo no Renaissance (The myth of language death: the Ainu Language Renaissance). Atarashii Nihonkan. Sekaikan ni mukatte: Nihon ni okeru Gengo to Bunka no Tayosei. 1993.
5. 'Kankyo Gengogaku' (Towards an Environmental Linguistics). Atarashii Nihonkan. Sekaikan ni mukatte: Nihon ni okeru Gengo to Bunka no Tayosei. 1993.
6. (with A. Nishizono-Maher and M. Masuda). 'Asian Women in Japan'. Atarashii Nihonkan. Sekaikan ni mukatte: Nihon ni okeru Gengo to Bunka no Tayosei. 1993.
7. (with K. Kawanishi) 'Nihon no Zainichi Korean no Gengo Iji' (Maintaining the Ko-

- rean Language in Japan). Atarashii Nihonkan. Sekaikan ni mukatte: Nihon ni okeru Gengo to Bunka no Tayosei. 1993.
8. 'Freud'. The Encyclopedia of Language and Linguistics. Oxford: Pergamon Press. 1993. Vol.3. pp.1306–1307
 9. 'Gregory Bateson'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.1. pp.315
 10. 'Michel Foucault'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3. pp.1293–1294
 11. 'Lacan'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993 Vol.4. pp.1891
 12. 'Chiri Mashiho'. [with Suzuko Tamura]. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.2. pp.534–535
 13. 'Shichiro Murayama'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.5. pp.2633
 14. 'John Batchelor'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.1. pp.314–315
 15. 'Basil Chamberlain'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.2. pp.503
 16. 'The Language Situation of Japan'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.4. pp.1804
 17. 'The Language Situation of the Philippines'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.6. pp.3009–3011
 18. 'Ryukyuan'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.7. pp.3636
 19. 'Tagalog'. [with P. B. Naylor]. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.9. pp.4515–4516
 20. 'Cebuano'. The Encyclopedia of Language and Linguistics & Linguistics. 1993. Vol. 2. pp.492
 21. 'Bikol'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.1. pp.352
 22. 'Pangasinan'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.6. pp.2916
 23. 'Ilocano'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3. pp.1646
 24. 'Ilongo'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3. pp.1646
 25. 'Samar–Leyte'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.7. pp.3641
 26. 'Kapampangan'. The Encyclopedia of Language and Linguistics. 1993. Vol.4. pp.1835

27. 'Automatic Writing'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.1. pp.283
28. 'Auditory Hallucination'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.1. pp.261
29. 'Asyndetic Speech'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.1. pp.247
30. 'Circumstantiality'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.2. pp.556
31. 'Clang Association'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.2. pp.556
32. 'Confabulation'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.2. pp.689
33. 'Coprolalia'. [with A. Nishizono–Maher] The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.2. pp.768
34. 'Desultory Thinking'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.9. pp.4606
35. 'Desymbolization'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.2. pp.877
36. 'Drivelling Thinking'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.9. pp.4606
37. 'Echo de Pensees'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3. pp.1084
38. 'Echolalia'. [with A. Nishizono–Maher] The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3. pp.1085
39. 'Echologia'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3. pp.1085–1086
40. 'Free Association'. [with A. Nishizono–Maher] The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3. pp.1298
41. 'Flight of Ideas'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3. pp.1267
42. 'Ganser's Syndrome'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3. pp.1344
43. 'Grapho–Analysis'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3. pp.1491
44. 'Graphomania'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3.

- pp.1491
45. 'Graphopathology'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3.
pp.1491
 46. 'Graphophobia'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3.
pp.1491
 47. 'Graphorrhoea'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3.
pp.1491
 48. 'Gilles de la Tourette Syndrome' [with A. Nishizono–Maher]. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.9. pp.4641
 49. 'Hypochondriac Speech'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.3. pp.1624
 50. 'Logoclonia'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.4. pp.2302
 51. 'Metonymic Speech'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.5. pp.2477
 52. 'Microcosm of Words'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.5. pp.2487
 53. 'Mirror Writing'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.5. pp.2506
 54. 'Moria'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.5. pp.2542
 55. 'Noncorrespondence'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.5. pp.2822
 56. 'Overinclusion'. The Encyclopedia of Language and Linguistics. 1993. Vol.5. pp.2894
 57. 'Paralogia'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.6. pp.2941
 58. 'Regressive Metonymy'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.7. pp.3511–3512
 59. 'Scale for the Assessment of Thought, Language and Communication'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.9. pp.4615
 60. 'Speech Plateau'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.8. pp.4203
 61. 'Stereotypy'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.8. pp.4350
 62. 'Syndetic Speech'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993.
 63. 'Transitory Thinking'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.9. pp.4606

64. 'Verbigeration'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.9. pp.4922
65. 'Word Salad'. [with A. Nshizono-Maher] The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.9. pp.5014
66. 'Word Wit'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.9. pp.5018
67. 'Writer's Cramp'. The Encyclopedia of Language & Linguistics. 1993. Vol.9. pp.5032
68. 'Tagengo-sei to Tabunka-sei' [Multilingualism and Multiculturalism. 1993. In Nihon Shakai no Minzoku-teki Koosei-Esunishitii no Shakaigaku. (Ed. Nakano and Imazu). Tokyo: Sekai-shiso sha.
69. "Preface". Profiles of 'Japonesia': Language, Ethnicity and Power. (Ed.). Working Papers in Japan Studies. ICU. Japan Studies Program. 1994. p.i-ii.
70. "On Language, the Unconscious and the Museum". Profiles of 'Japonesia': Language, Ethnicity and Power. (Ed.). Working Paper in Japan Studis. ICU. Japan Studies Program, 1994. pp.1-9.

(2) Journal Articles

- ① (With Ikuko Yuasa). 'Bilingualism and Group Boundaries: A Case Study'. Bulletin of Asian Cultural Studies. 1993, No.19, pp.22-37.
- ② Nihongo no Pijin (On Japanese Pidgins). Tsuyaku no Sekai (Translation). 1994. Vol.2. pp.34-40.
- ③ (with N. Usui). 2001 Definitions of Culture. Educational Studies. 1994. Vol.36. March p.275-342
- ④ Korean Language Maintenance: An Osaka Study. Pan-Asiatic Linguistics Vol. III, pp.1440-1450

(3) Magazine articles

- ① 'The Ainu language: undeniably alive: the survival and revival of a language heritage'. Japan Times Weekly. August, 1993. p.8-9.
- ② 'The Japanese language: homogeneous or multilingual'. Japan Times Weekly. August, 1993. p.8.
- ③ 'Environmental Linguistics'. Japan Times Weekly. August, 1993. p.11.

(4) Reviews

Review of Kreiner, J. (Ed). *European Studies on Ainu Language and Culture*. Deutsche Institut fur Japanstudien der Philip-Franz--Von Siebold-Stiftung 6. *Monumenta Nipponica*. Vol.49, 3: 385-387.

ピーター B. マッキヤグ 準教授

My current research activities are focused on (1) a paper challenging a currently popular theory on reader versus writer responsibility in the field of contrastive rhetoric; (2) a presentation/paper on the contribution of conceptual metaphor to textual coherence to be presented at the Japan Association of Systemic Functional Linguistics meeting; and (3) a presentation/paper on the occurrence of conceptual metaphor in EFL teacher talk and the implications this has for the acquisition of metaphor among second language students to be presented at the 1994 annual Japan Association of Language Teachers (JALT) meeting.

10/93 Attended annual Japan Association of Language Teachers (JALT) conference in Omiya Japan.

3/94 Attended the annual Teachers of English to Speakers of Other Languages (TESOL) Convention in Baltimore Maryland.

4/94 Attended the annual College Composition and Communication Conference in Nashville Tennessee.

4/94 Was co author of two Monbusho approved high school English textbooks published by Kenkyusha.

The New Age English II . (with Kazuo A., Saito S., Kosuke M., and Mikami M.) 1994. Tokyo: Kenkyusha. 176 pages.

The New Age Reading (with Kazuo A., Saito S., Kosuke M., and Mikami M.) 1994. Tokyo: Kenkyusha. 105 pages.

〈研究員〉

影山 礼子 研究員

研究活動

- ① 1994年8月より9月初旬まで、国際武道大学在外研究助成を得て、明治期の来日女性宣教師 E. G. Philipps の調査を英国 Cambridge 大学にて行った。
- ② 大学における専攻分野のジェンダー論的研究を共同研究中であるが、その成果を国際女性学会東京会議（1994年8月3日～7日、国立婦人教育会館）にて発表した。
- ③ 「成瀬仁蔵の多元主義－帰一の理念をめぐる」を研究中である。
- ④ 渋沢研究会シンポジウム「渋沢栄一のビジョンと行動－経済観・対外観・教育観を中心として」（1994年11月25日、明治大学）の基調報告者として渋沢の教育観を検討中である。

著作・研究論文

- ① 『成瀬仁蔵の教育思想－成瀬的プラグマティズムと日本女子大学校における教育』
風間書房、1994年2月
- ② ‘For the Advance of Women into Science and Technology: Current Issues and Directions of Education in Japan’ .
EMPOWERMENT OF WOMEN: CONSTRUCTING GLOBAL HUMANE SOCIETY (Proceedings of '94 Tokyo Symposium on Women)
International Group for the Study of Women, 1994.

その他

- ① 「成瀬先生の女性観－軽井沢（1991年度）での報告から」
『成瀬先生研究会活動の記録（9）』（桜楓会設立90周年記念誌）
日本女子大学桜楓会、1994年3月
- ② 「成瀬仁蔵のアメリカ留学の地を訪ねて」『成瀬記念館 No.10』日本女子大学、1994年秋
- ③ 『教育思想事典』（分担執筆）世識書房、近刊
- ④ 『中世歴史事典』（The Middle Ages—A Concise Encyclopedia）（共訳）原書房、近刊

研究発表／講演

- ①「成瀬仁蔵の教育思想－宗教観と教育観をめぐって」比較思想学会 東京地区研究例会（大正大学），1993年12月4日
- ②「成瀬先生との別れと遺訓」日本女子大学成瀬仁蔵先生告別記念講演（日本女子大学桜楓会），1994年1月28日
- ③「成瀬仁蔵と森村市左衛門」日米経済交流史研究会（森村豊明会），1994年3月12日
- ④‘For the Advancement of Women into Science and Technology: Currint Issues and Directions of Education in Japan’. 国際女性学会東京会議（国立婦人教育会館）1994年8月5日

その他

- ①中国鄭州大学国際女子学院院長・李小江教授をICUアジア文化研究所公開セミナー（‘The Changing Social Status, Roles and Functions of Women in a Reforming China’）に招聘した。1994年8月1日
- ②国際女性学会1994年東京会議，*Proceedings of '94 Tokyo Symposium on Women* を編集集中。

川津 茂生 研究員

研究活動

- ①対称図形の知覚に関する実験的研究
- ②視覚的探索における非対称性（いわゆる探索非対称性）に関する実験的研究
- ③探索非対称性と類似性判断における非対称性の関係に関する理論的，実験的研究
- ④認知心理学における“Representation”の定義に関する研究
- ⑤認知科学の基礎に関する理論的研究

学会参加，発表

- ①日本心理学会第57回大会参加発表，1993年9月8～10日，早稲田大学
- ②日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル研究分科会」参加，1993年12月18日，東京大学
- ③日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル研究分科会」参加，1994年3月11日，早稲田大学

- ④日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル研究分科会」参加，1994年7月9日，
東京大学
- ⑤視覚探索研究会第16回参加，1993年9月8日，早稲田大学
- ⑥視覚探索研究会第17回参加，1993年12月18日，東京大学
- ⑦視覚探索研究会第20回参加，1994年7月9日，東京大学
- ⑧視覚探索研究会第21回参加，1994年8月6～8日，長野県穂高町
- ⑨京都大学心理学セミナー参加，1994年7月16日，京大会館

論文，著作

Kawazu, S. & Yokosawa, K. “Asymmetry between searches for symmetry and asymmetry”（この論文はICUにおいて川津が行った実験によるデータに基づいて執筆された。1994年8月，投稿した。）

鬼頭 當子 研究員

研究活動

“海外の大学図書館における日本関係資料の所蔵状況”

学会等参加

大学図書研究集会 1993年11月25，26日 於立教大学新座校地
京都外国語大学主催国際会議 1994年3月4，5日

その他

海外の図書館視察

LOS ANGELES PUBLIC LIBRARY, ALBUQUERQUE PUBLIC LIBRARY,
UNIVERSITY OF NEW MEXICO LIBRARY, COLOUMBIA UNIVERSITY LI-
BRARY, PRINCETON UNIVERSITY LIBRARY.

日本図書館協会大学部会委員

上 別 府 隆 男 研 究 員

研究活動

テーマ：社会・人間開発，人権，国際教育

- ① Fulbright Scholar, Program in Intercultural Management, School for International Training (SIT)。1993年8月ー。Sustainable Development 専攻。
- ② 世界社会開発サミット準備委員会第2回会合(ニューヨーク国連本部, 1994年8月22日ー9月2日)に Minority Rights Group *ワシントン支部の代表として出席。
*世界のマイノリティの人権擁護・推進を目的とする国際NGO。

学会参加

- ① Comparative and International Education Society 年次総会(カリフォルニア州サンディエゴ, 1994年3月21ー24日)。
- ② 1994 Fulbright Foreign Student Enrichment Seminar: Pluralism, Participation, and the U.S. Political System (ワシントン, 1994年4月6ー8日)。

著 作

- ① “South-South Cooperation in the 21st Century.” (1994) In Cooperation South. New York: UNDP (United Nations Development Programme).
- ② “Book Review: Education Rights and Minorities (1994) by Minority Rights Group International, London.” In Newsletter of the Interest Group on the Status of Minorities of Other Communities, vol.1, no.2, October 1994. Washington, DC: American Society of International Law.

そ の 他

- ① Minority Rights Group ワシントン支部において, Policy Coordinator として世界社会開発サミット・第4回国連女性会議への参加, 人権問題等を担当。1994年8月ー。
- ② SIT Program in Intercultural Management 入学審査委員会の選抜メンバーとして大学院応募者の審査・合否決定に携わる。1993年10月ー1994年5月。
- ③ 米バーモント州 Community Prevention Partnership (アルコール・麻薬乱用防止を目的とするNGO) のコンサルタントの一員としてプロジェクト立案。

渡部 淳 研究員

研究活動

- ①日本における国際教育の展開とその教育史的意義
- ②社会科教育における教育方法の国際比較

学会・研究会参加

- ①全国私立中学高等学校 第15回 国際教育研修会（アルカディア市ヶ谷）
1993年9月27日～28日
- ②日本社会科教育学会 第43回 全国研究大会（東京学芸大学）
1993年10月23日～24日
- ③東京学芸大学附属大泉中学校 研究発表大会
1993年11月5日
- ④日本国際理解教育学会 研究発表大会（国連大学）
1994年2月6日

研究論文，著作

- ①「ディベート教育～その構想と実践」
国際基督教大学 IA『教育研究』第36号，1994年2月，333～353頁
- ②「国際感覚って何だろう」
『百万人の英語』第48巻第15号，旺文社，1994年2月，30～35頁
- ③「国際理解に関する問題をどう取り上げるか」
『学校運営研究』第33巻4号，明治図書，1994年4月，99～101頁
- ④「グローバルな課題と学習の転換」
『教育』8月号，国土社，1994年7月，28～36頁
- ⑤「(インタビュー) 消費社会の落とし穴」
『東京都消費者行政情報』No.187，東京都生活文化局，1994年4月，21～24頁

講演等

- ①講演「帰国生の教育体験について」大東文化大学・河内ゼミナール（大東文化大学）
1993年11月29日
- ②シンポジスト「21世紀の教育を考える～学校週5日制を念頭において」 成城学園
初等学校・第22回教育改造研究会 1992年12月4日
- ③講演「ディベート＝討論ゲームの目的と楽しさ」コープ東京主催（コープ東京新中

野ビル) 1994年2月5日

その他

- ①全国私立中学高等学校・国際教育研修会 専門委員
- ②NHK 教育テレビ・国際理解教育番組 番組委員
- ③法政大学非常勤講師

原 和 子 研究員

研究活動

異文化体験のライフコース分析——「かつての帰国子女」の追跡調査

学会等

- ①第15回異文化間教育学会参加
1994年5月28日～29日 目白学園女子短期大学(東京)
- ②「文化と人間の会」研究会
1993年12月3日 法政大学
1994年7月15日 法政大学
- ③「異文化間コミュニケーション講演会」
1993年10月 神田外語大学

〈教育研究所〉

小 島 文 英 助手

研究活動

- ①ケニアにおける高等教育の発展と中等理科教員養成に対する政府の政策についての研究を行っている。ケニアを訪れ、一次ソースの収集を行っている。エジンバラ大学の Kenneth King 教授のから直接指導を受け、国際開発学会・日本アフリカ学会 関東支部等において国内のアフリカ研究者との協力関係も深めつつある。

- ②国際基督教大学研究助成基金補助金による「諸外国における高等教育機関の選考制度についての調査・研究」（千葉泉弘，永田佳之，岡林秀樹との共同研究）でカナダを担当している。大使館等への接触により国内で入手可能な資料の収集をほぼ終え、現地調査を実施する段階にある。

研究論文

千葉泉弘，永田佳之，小島文英，原田一成，「学生不在の大学改革」、『教育研究』（国際基督教大学教育研究所紀要）36（1994.3）：PP.55-101

その他の活動

- ①「ケニア，マジモト村を訪ねて」報告 國學院大学「南」に学ぶ／「南」を学ぶ研究会（第2回）1993年12月18日
- ②国際協力事業団 平成5年度技術協力専門家養成研修(第3回)参加 1994年2月21日～1994年3月25日
- ③「国際教育協力の一体験から」講演 ICUユネスコクラブ 1994年5月24日
- ④世銀セミナー「世界銀行の社会開発への取り組み：開発におけるジェンダー」参加 1994年7月5日
- ⑤世銀専門家会議「世界銀行の社会開発への取り組み：開発におけるジェンダー」参加 1994年7月6日

永田佳之 助手

（教育哲学研究室を参照）

岡林秀樹 助手

（心理学研究室を参照）

IV. 大学院教育学研究科修士論文

A. 教育哲学

1. 岡野 恵 Secondary Education for Girls in Japan
 - A Comparison of Attitudes and Aspirations of Girls in Single-Sex and Coeducation Schools -
 日本の女子中等教育
 - 女子校と共学校における女子生徒の態度と熱意の比較 -
 < 1994年3月卒業 >
2. 武藤 小枝里 ニエレレの思想とタンザニアの教育政策の展開
 Thought of Nyerere and Development of Educational Policy in Tanzania
 < 1994年6月卒業 >

B. 教育心理学

3. 清田真由美 老年期における依存—被依存の変化
 — 老いに対する肯定感との関連において —
 Changes of Dependency and Dependability in Senescence:
 In Relation with Positive Attitudes towards Aging
 < 1994年3月卒業 >
4. 野中 純子 後期青年期女子における対児感情と分離個体化との関連に関する研究
 A Study of Relationship Between the Feelings to Babies and Separation-Individuation of Young Women in Late Adolescence
 < 1994年6月卒業 >

C. 視聴覚教育法

5. 池田 伸子 日本語教育の講義聴解学習における語彙の提示と内容に関する背景的知識の提示についての実験的研究
 An Experimental Study on the Relative Effectiveness of Vocabulary Presentation and Context Presentation concerning Listening Comprehension of Lectures in Japanese

6. 石川 勝博 メディア関連欲求のテレビ視聴による充足に関する実証的研究
An Empirical Study on the Gratifications of Media-related Needs by Television Exposure
7. 加藤由香里 日本語の発話練習におけるモニタリングに関する実証的研究
An Empirical Study on Monitoring in Speech Training of Japanese as a Foreign Language

< 1994 年 3 月卒業 >

D. 英語教育法

8. 二木 陽子 A Study of Ga/no Conversion
「が—の交替」に関する一考察
9. 石黒 太郎 A Study of the Old English *forbeodan* and its Negative Dependent Clause
古英語動詞 *forbeodan* とその否定従属節の一研究
10. 仲田 和来 A Relevance-Theoretical Analysis of the Non-Use of Case-Marking Particles in Colloquial Japanese
日本語口語体における格助詞不使用の、関連性理論による分析
11. 西岡 朋子 “Native Speaker” Revisited:
the Perspective from Bilingualism
ネイティブスピーカーの再考
— バイリンガリズムの見地から —

< 1994 年 3 月卒業 >

12. スワレス・アーマンド A Comparison of the Use of CAI and the Use of a Workbook in the Self-Study of English Paragraph Skills
英語教育におけるパラグラフ練習の独学のための C A I 法とワークブック法の比較研究

< 1994 年 6 月卒業 >

V. 教育学研究科博士論文

A. 教育心理学

1. 巖岩 秀章 エンカウンター・グループにおける人格変化に及ぼす「受容」と「対決」の影響についての研究
A Study of the Influence of “Acceptance” and “Confrontation” on Member’s Personal Change in Encounter Group
< 1994年3月学位授与 >

B. 視聴覚教育法

2. 和田 正人 テレビへの接触行動モデルの構築に関する実証的研究
An Empirical Study of the Construction of Television Exposure Model
< 1994年6月学位授与 >

C. 英語教育法

3. 中村 優治 Measurement of Japanese College Students’ English Speaking Ability in a Classroom Setting
日本人大学生の英語スピーキング能力の教室内における測定と評価
< 1994年3月学位授与 >

VI. 教育実習報告

1. 教育実習報告

1994年度には65名の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

1) 実習生総数 65名

男 子 9名

女 子 56名

2) 実習日程及び実習生

- 5月16日～5月28日 筑波大学付属高等学校（東京）
- 5月19日～6月1日 北海道札幌南高等学校
- 5月21日～6月4日 大分県立別府羽室台高等学校
- 5月23日～6月4日 敬和学園高等学校，新井市立新井中学校（新潟），長野県立長野高等学校
- 5月27日～6月9日 岡山市立高島中学校（岡山県），茨城県立土浦第一高等学校
- 5月28日～6月10日 都立三田高等学校
- 5月28日～6月11日 新潟県立高田高等学校
- 5月30日～6月10日 清瀬市立清瀬中学校，府中市立第二中学校（東京），千葉市立都賀中学校（千葉），栃木県立宇都宮高等学校，和歌山県立田辺高等学校
- 5月30日～6月11日 三鷹市立第二中学校，三鷹市立第七中学校，日本大学第一高等学校（東京），英和女学院高等学校（静岡），基督教独立学園高等学校（山形），熊本県立人吉高等学校
- 6月1日～6月14日 都立豊多摩高等学校，国際基督教大学高等学校（東京），神奈川県立松陽高等学校，日本大学習志野高等学校（千葉），高岡市立牧野中学校（富山），明治学園高等学校（福岡）
- 6月4日～6月18日 都立三鷹高等学校
- 6月6日～6月18日 千代田区立麴町中学校，中野区立第三中学校，青蘭学院中学高等学校（東京），愛知県立横須賀高等学校，名古屋市立菊里高等学校，南山中学高等学校（愛知），明光学園高等学校（福岡）

- 6月6日～6月25日 春日部市立春日部中学校（埼玉）
- 6月13日～6月24日 横浜雙葉中学高等学校（神奈川県）
- 6月13日～6月25日 中野区立第一中学校，目黒区立第二中学校，三鷹市立第六中学校，女子学院中学高等学校（東京），銚子市立第一中学校（千葉），越谷市立光陽中学校（埼玉），キリスト教愛真高等学校（島根），大阪教育大学教育学部附属池田中学校
- 6月13日～6月29日 立教女学院中学校（東京）
- 9月1日～9月14日 静岡県立静岡高等学校，宮崎県立日向高等学校
- 9月19日～10月1日 宮崎県立宮崎南高等学校
- 10月4日～10月20日 北海道札幌南高等学校
- 10月5日～10月18日 青山学院中学校高等学校（東京）
- 10月13日～10月26日 キリスト教愛真高等学校（島根）

3) 実習参加学生学科別内訳

学科	性別		計
	男	女	
人文学科	0	2	2
社会科学	3	6	9
理学	4	6	10
語学	2	10	12
教育学	0	18	18
国際関係学	0	7	7
教育学研究科	0	3	3
行政学研究科	0	1	1
理学研究科	0	0	0
比較文化研究科	0	1	1
科目等履修生	0	2	2
合計	9	56	65

※1992年4月より「教職聴講」制度は廃止され「科目等履修生」制度に包括された

4) 実習生教科別内訳

学科	性別		計
	男	女	
社会	3	20	23
理科	2	1	3
数学	1	5	6
英語	3	30	33
宗教	0	0	0
合計	9	56	65

2. 教員免許状取得状況報告

1994年3月卒業生451名(学部404名,大学院47名)の内,一括申請により教員免許状を取得した学生は次のとおりである。

1) 教養学部学科別教免取得学生数(科目等履修生は除く)

学科	種別	取得者実数	中一種	高一種
人文学科		1	1	1
社会科学科		10	7	11
理学科		0	0	0
語学科		13	12	13
教育学科		4	4	4
合計		28	24	29

2) 教養学部教科別教免取得学生数(科目等履修生は除く)

教科種別	社会		地理・歴史	公民	理科		数学		英語		宗教	
	中一	高一	高一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一
人文学科									1	1		
社会科学科	4	2	2	4					3	3		
理学科												
語学科									12	13		
教育学科									4	4		

3) 大学院教免取得生数

研究科 専攻科		種別			
		中一	高一	中専	高専
教育学研究科	教育哲学専攻			—	—
	教育心理学専攻			—	—
	英語教育専攻			3	3
	視聴覚教育専攻			1	1
行政学研究科	行政学専攻				
比較文化研究科	比較文化専攻			—	—
理学研究科	基礎理学専攻				1

※中・高一種免許状取得者は院在籍科目等履修生による